

# 2010 年 7 月の東北地方の天候

## 【 7 月の特徴 】

### ○高温

#### ( 1 ) 2010 年 7 月の概況

上旬から中旬の中頃にかけては、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。中旬の終わりから下旬は、太平洋高気圧におおわれ晴れの日が多かった。この時期に現れることの多いオホーツク海高気圧の影響がほとんどなく、日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込み、また下旬は太平洋高気圧におおわれ晴れて、高温の日が続いた。月平均気温は東北地方でかなり高くなった。

東北南部、東北北部ともに 18 日ごろ梅雨明けしたと見られ、東北南部は平年より 5 日早く、東北北部は平年より 9 日早い梅雨明けとなった（速報値）。

月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で多い。

#### ( 2 ) 各旬の天候経過

**上旬：**この期間、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。また、太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った気流と上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、期間を通して大気の状態が不安定となった。各地で局地的大雨となり、浸水害や山がけ崩れ害などが発生した。また、青森県と岩手県ではひょうによる被害が発生した。気温は、南から暖かい空気が流れ込んだため、かなり高くなった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北地方で平年並。

**中旬：**この期間、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の終わりは太平洋高気圧におおわれ概ね晴れた。12 日は、低気圧が通過した影響で荒れた天気となり、青森県と秋田県で強風害や山がけ崩れ害が発生した。15 日から 17 日にかけては大気の状態が不安定で、各地で局地的大雨となり、浸水害や山がけ崩れ害、強風害、落雷による停電などが発生した。気温は、太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込んだため、高くなった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

**下旬：**この期間、太平洋高気圧におおわれ晴れの日が多かったが、強い日射で地表付近が熱せられたことや上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定となり、雷雨となった所があった。各地で局地的大雨となり、浸水害や山がけ崩れ害などが発生した。福島県ではひょうによる被害が発生した。また、高温により酷暑害が発生した所があった。

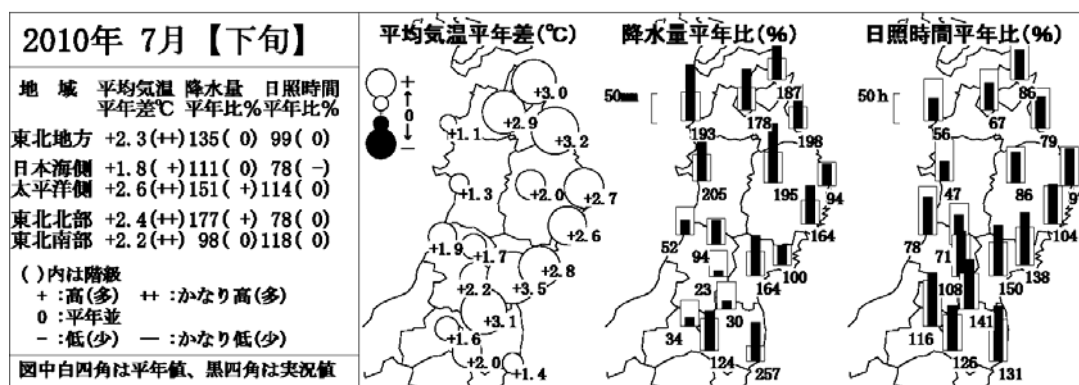
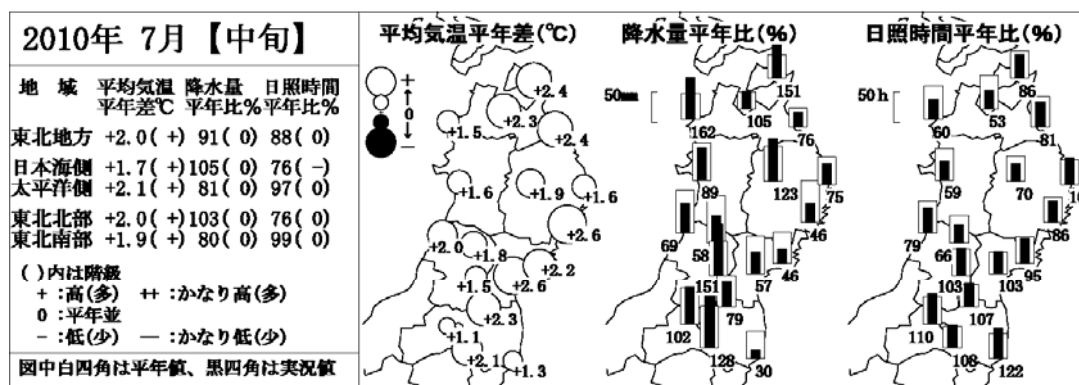
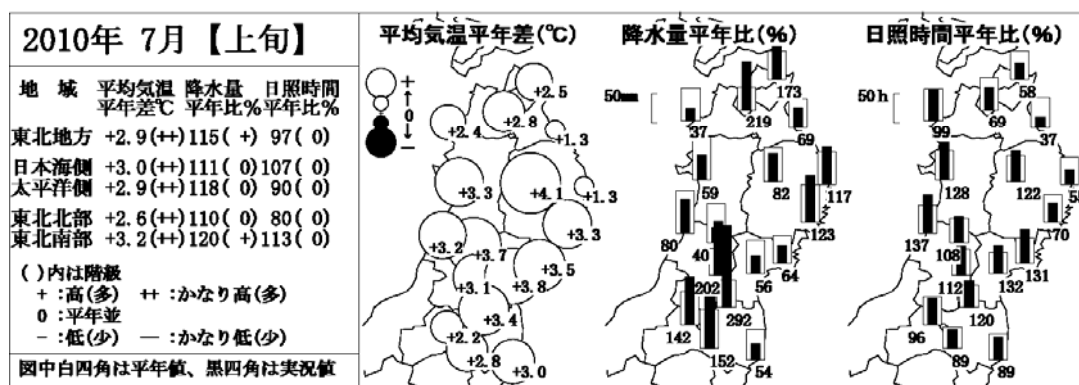
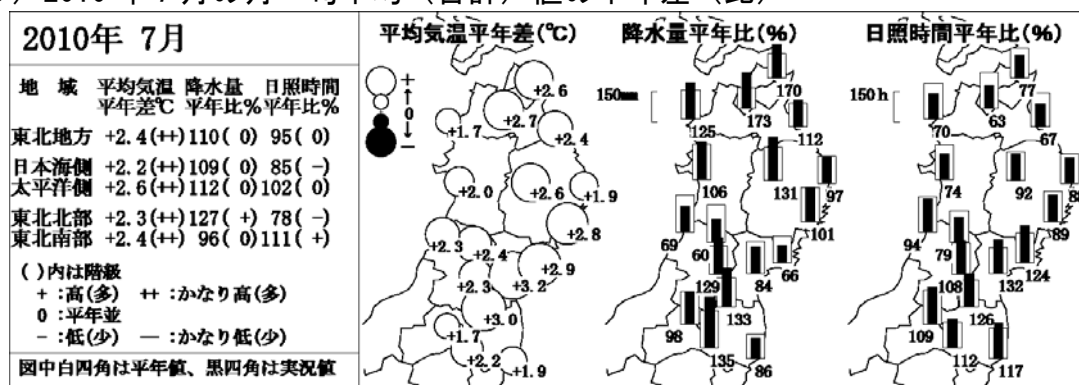
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

( 注 ) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2010年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2010 年 7 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	23.8	( +2.7)	+*	177.5	(173)	+	12	112.2	( 63)	—*
深 浦	23.0	( +1.7)	+*	183.0	(125)	+	13	124.3	( 70)	—
む つ	22.2	( +2.6)	+*	208.5	(170)	+*	9	116.6	( 77)	—
八 戸	22.6	( +2.4)	+*	131.0	(112)	○	11	113.6	( 67)	—
秋 田	24.8	( +2.0)	+*	189.5	(106)	○	10	126.9	( 74)	—
盛 岡	24.4	( +2.6)	+*	217.0	(131)	+	14	132.0	( 92)	—
大 船 渡	23.8	( +2.8)	+*	171.5	(101)	○	15	133.6	( 89)	○
宮 古	21.9	( +1.9)	+	134.5	( 97)	○	15	130.9	( 88)	○
仙 台	25.3	( +3.2)	+*	134.0	( 84)	○	14	168.6	( 132)	+
石 巻	24.2	( +2.9)	+*	86.5	( 66)	○	16	184.1	( 124)	+
山 形	25.5	( +2.3)	+*	185.0	(129)	+	14	168.2	( 108)	○
新 庄	24.7	( +2.4)	+*	112.0	( 60)	—	13	122.7	( 79)	—
酒 田	25.5	( +2.3)	+*	128.5	( 69)	—	10	168.3	( 94)	○
福 島	26.5	( +3.0)	+*	192.0	(133)	+	16	168.2	( 126)	+
若 松	25.1	( +1.7)	+*	156.5	( 98)	○	16	183.9	( 109)	○
白 河	24.2	( +2.2)	+*	252.5	(135)	+	20	144.5	( 112)	+
小 名 浜	23.6	( +1.9)	+*	104.0	( 86)	○	8	179.2	( 117)	+

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)      ○:平年並      -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

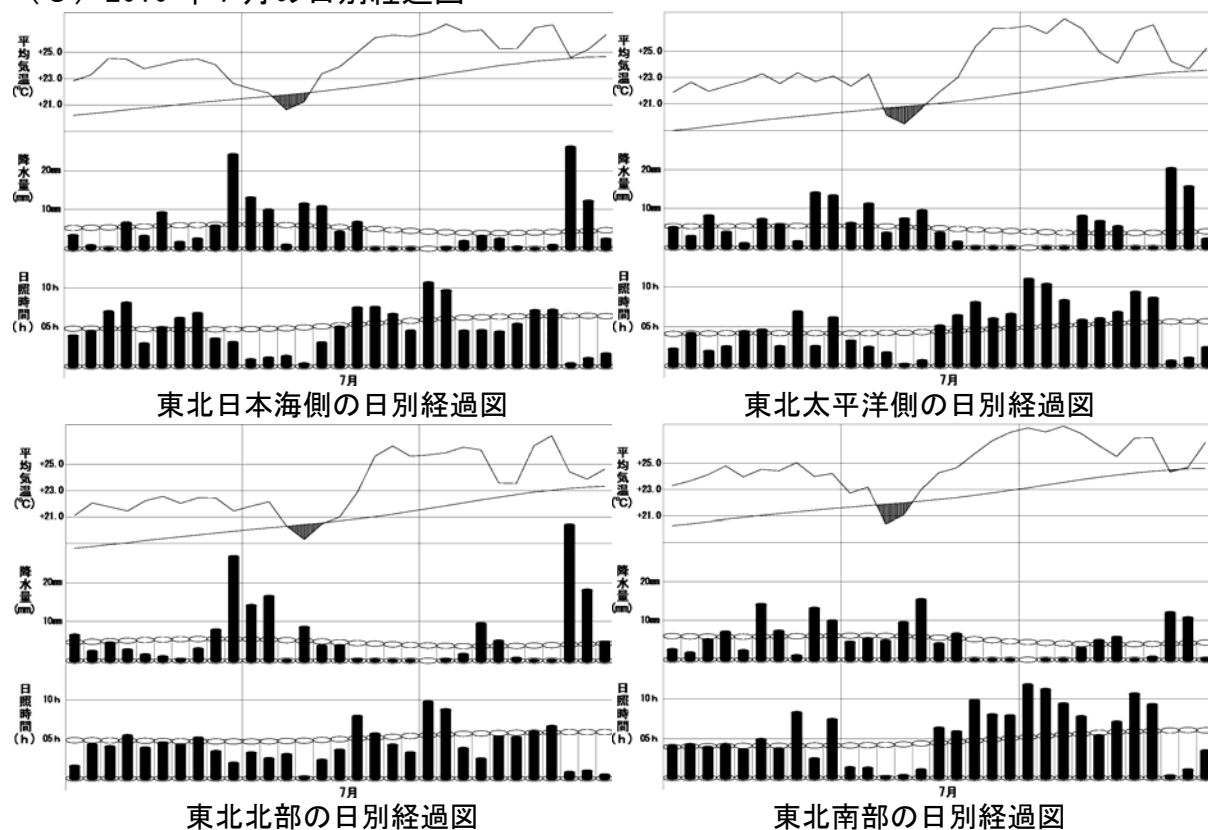
かなり高い(多い)      かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に「)」や「]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。「)」付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが「]」付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

## (5) 2010 年 7 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

## (6) 2010 年 7 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃（西暦年）	開始年	平年値 ℃
1	大船渡	23.8 =	+2.8	23.8 (1978)	1964	21.0
	仙台	25.3	+3.2	25.0 (1978)	1927	22.1
2	新庄	24.7	+2.4	25.0 (1978)	1958	22.3
	酒田	25.5 =	+2.3	25.6 (1978)	1937	23.2
	福島	26.5 =	+3.0	26.7 (1978)	1889	23.5
3	むつ	22.2	+2.6	23.3 (1978)	1935	19.6
	盛岡	24.4	+2.6	25.2 (1978)	1924	21.8

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

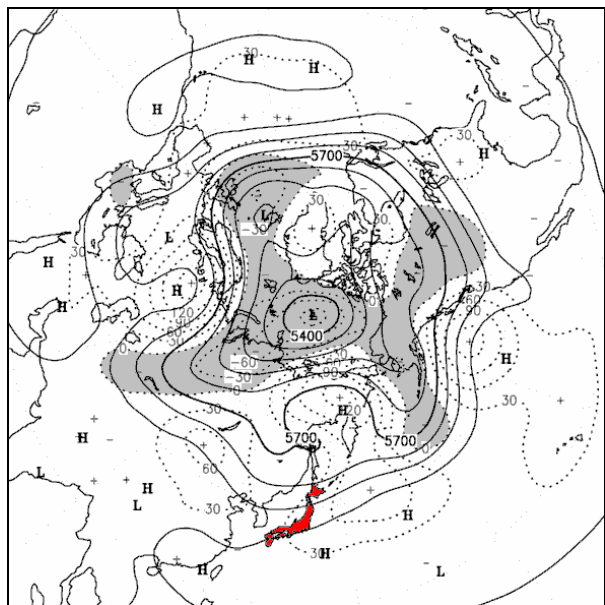
月間日照時間多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

### (7) 2010 年 7 月の循環場の特徴

500hPa 高度では、ヨーロッパ周辺、東シベリア、北米西岸で顕著な正偏差となる一方、西シベリアやベーリング海、大西洋などで顕著な負偏差となり、北半球全体で偏西風の蛇行が明瞭だった。日本付近では日本の東で正偏差となり、南から暖かく湿った気流が入りやすく、東北地方は月平均気温がかなり高くなった。

また、月後半は気圧の尾根が日本付近で強まったこと、フィリピン周辺で対流活動が活発になったことから、日本付近で太平洋高気圧が強まり、東北地方は東北南部を中心に晴れて厳しい暑さとなった。



2010 年 7 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎  
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 2010 年の梅雨明けの状況 (速報値)

地方	平成 22 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6 月 19 日ごろ	4 日早い	17 日早い	6 月 23 日ごろ	7 月 6 日ごろ
奄美	7 月 15 日ごろ	17 日遅い	10 日遅い	6 月 28 日ごろ	7 月 5 日ごろ
九州南部	7 月 20 日ごろ	7 日遅い	8 日遅い	7 月 13 日ごろ	7 月 12 日ごろ
九州北部	7 月 17 日ごろ	1 日早い	18 日早い	7 月 18 日ごろ	8 月 4 日ごろ
四国	7 月 17 日ごろ	平年と同じ	13 日早い	7 月 17 日ごろ	7 月 30 日ごろ
中国	7 月 17 日ごろ	3 日早い	----	7 月 20 日ごろ	特定しない
近畿	7 月 17 日ごろ	2 日早い	17 日早い	7 月 19 日ごろ	8 月 3 日ごろ
東海	7 月 17 日ごろ	3 日早い	17 日早い	7 月 20 日ごろ	8 月 3 日ごろ
関東甲信	7 月 17 日ごろ	3 日早い	3 日遅い	7 月 20 日ごろ	7 月 14 日ごろ
北陸	7 月 17 日ごろ	5 日早い	----	7 月 22 日ごろ	特定しない
東北南部	7 月 18 日ごろ	5 日早い	----	7 月 23 日ごろ	特定しない
東北北部	7 月 18 日ごろ	9 日早い	----	7 月 27 日ごろ	特定しない

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。  
「平年」は、平成 12 年 (2000 年) までの過去 30 年の平均 (入り・明けを特定しなかった年は除外) の日付です。